

屋久島

西部地域 ルールガイド



環境省九州地方環境事務所

屋久島国立公園、世界自然遺産地域

「西部地域」へようこそ!

屋久島の西部には日本有数の規模を誇る照葉樹林が広がっています。通称“西部地域”と呼ばれるこの地域は、海岸から山の頂上まで美しい緑の森に覆われています。その豊かな森には多くの植物や動物が暮らしていて、世界自然遺産にも登録されています。

この地域を南北に貫く、道幅の狭い曲がりくねった一本の道路があります。この“西部林道”は、豊かな植生帯を通りヤクシマザルやヤクシカの観察に適した場所です。

この冊子は、西部地域で野生動物を観察する際に必ず守っていただきたいルールをまとめたものです。

西部地域のすばらしい自然や野生動物との健全な関係を壊さないために、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



ヤクシカ



ヤクシマザル

目次

- 1.西部地域とは、どんなところ? 3
- 2.ヤクシマザルのこと 5
- 3.サル・シカ観察5つのルール 7
- 4.ヤクシカのこと 9
- 5.西部地域のかつての暮らし 11
- 6.保全の取り組み 12
- 7.こんなときは、どうすべき? 13
- 8.西部地域マップ 14

昭和39年3月に西部地域を含む一帯が霧島屋久国立公園(平成24年から屋久島国立公園)に指定されました。西部地域は、特別保護地区として厳正に保護されており、植物の採取や動物の捕獲、工作物の設置などが規制されています。また、平成5年12月には世界自然遺産地域に登録されました。

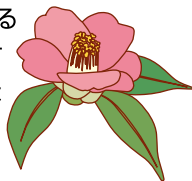
1 西部地域とは、どんなところ？

屋久島の西部には、日本有数の規模を誇る照葉樹林が広がっていて、通称“西部地域”と呼ばれています。

● 照る葉をもつ樹

照葉樹は冬でも青々とした葉をつけている常緑の木です。冬の寒さや乾燥から身を守るために葉の表面のクチクラ層が発達し、つやつやと光沢があることから、このように呼ばれています。

“照葉樹林”は、主にこの照葉樹で構成される森のことで、かつては西日本の低地に広く分布していましたが、今では、まとまった規模の森は少なくなりました。



● 屋久島ならではの豊かな植生

西部地域は、海岸から山頂まで途切れることなく緑の森に覆われている屋久島唯一の地域です。海岸部と山頂部の気温差は約12度。標高2000mに迫る山頂は札幌とほぼ同じ寒さです。そのため、海岸に近い場所では南の島らしい植物が生え、標高があがるにつれ、寒いところに分布するスギやモミが混じるスギ林帯に変わり、山頂部はヤクシマダケの草原になります。

● 世界自然遺産になった理由

海岸から山頂までの多様な自然植生、すなわち、“植生の垂直分布”が連続して残されていたことが、屋久島が世界自然遺産に登録された理由の1つです。

西部地域はこの垂直分布を眺めることができる貴重な場所です。



● 絶滅危惧種ヤクタネゴヨウ

ヤクタネゴヨウはゴヨウマツ(五葉松)の仲間、屋久島と種子島にしか自生しておらず、現在の個体数は2000本程度と推測されています。樹脂が多く材も柔らかで加工しやすかったことから、古来より船材(丸木船)や建材に使われてきました。西部地域はヤクタネゴヨウの最大の生育地です。

観光に訪れるその前に…観察ルールの確認を!

西部地域は、多くの観光客が訪れる場所でもあります。木漏れ日がゆれる緑のトンネルをくぐり、サルやシカと出会うひとときは、素晴らしい思い出になるでしょう。

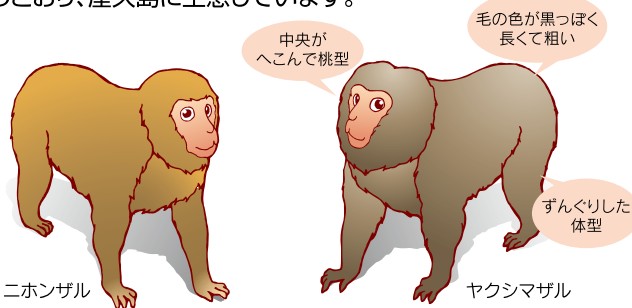
ただその前に、観察ルール(p.7-8)を確認してください。

あなたの何気ない行動が、西部地域の生態系に大きな影響を及ぼすかもしれません!

2 ヤクシマザルのこと

●ニホンザルの亜種

世界には約180種のサルがいますが、日本にもともと分布するのは、ニホンザルだけです。ニホンザルは屋久島から青森県の下北半島まで生息していて、ホンダザルとヤクシマザルの2つの亜種に分けられます。ヤクシマザルはその名のとおりに、屋久島に生息しています。



●寿命は約20～25年

赤ん坊の多くは春に生まれます。生まれて半年ぐらいは母ザルのお乳を吸って育ち、その後少しずつ森の植物を食べ始めます。独立するのは4～5歳です。雌ザルは5歳くらいから子どもを産みはじめ、生涯を生まれた群れで暮らします。一方、雄ザルは5歳くらいまでに成長すると、生まれた群れから出て行きます。その後は別の群れに入ったり、雄だけの群れで暮らしたりします。一匹で暮らすこともあるようです。

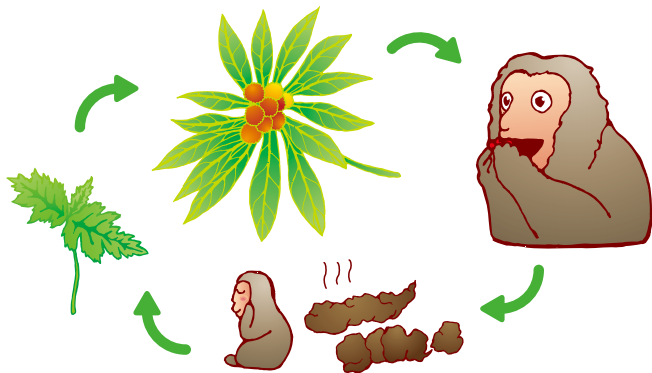
●大好物は森の果実

サルたちの大好物は森の果実です。初夏にはヤマモモやイヌビワ、秋から冬にはドングリなど様々な果実を食べます。果実と同じくらい葉っぱも食べていて、利用する植物は100種ほどです。この他にキノコや昆虫なども食べます。

●森のあちこちに種をまくサル

サルが食べた果実は消化されてなくなってしまうわけではありません。サルの糞の中にはたくさんのタネが混じっていて、条件が揃えば、やがて芽を出します。

自分で動けない植物にとって、果実がサルに食べられることは、自分の子孫を離れた場所に運んでもらえる重要な機会です。このため、植物の方も果実を食べるサルや鳥などにうまくタネを運んでもらえるよう、甘い果肉をもっていたり、目立つ色をつけるものがたくさんあります。



3 サル・シカ観察5つのルール

野生動物のために…

①絶対に餌をやらないで

サルやシカは、野生の動物です。「自分が与えるだけなら…」という軽い気持ちで彼らの生活を壊すことになるのです。

●行動への影響

人の食べ物の味を覚えた動物は、餌をもらうために人に近付き、やがては、人に襲いかかる凶暴な性格に変わります。

餌に頼るようになった動物は、生活の場所やスタイルを変え、いずれポンカン畑などの農地を荒らす可能性があります。



●健康面への影響

人の食べ物は野生動物にとって有害なこともあります。また、餌を通して人間の病気が彼らに移り、深刻なダメージを与えることもあります。

●生態系への影響

自然界は私たちが計り知れない複雑なつながりの中で成り立っています。サルやシカなどの野生動物の行動を人間が変えてしまうことは、このバランスを崩してしまうことなのです。

例えば、サルに食べられることでタネを遠くまで運んでいた植物はどうなってしまうでしょう？

サルへの餌やりは屋久島町条例で禁止されています。

※屋久島町猿のえ付け等禁止条例 違反者は5万円以下の過料

あなたの安全のためにも…

②車をきちんと停めてから

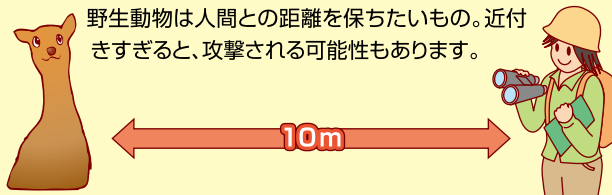
西部林道で観察するときには、空いたスペースに駐車するなど、他の車の通行の邪魔にならないように、観察をしましょう。



③10m以内に近付かないで

カメラのレンズを覗いているうちに近付きすぎていませんか？

野生動物は人間との距離を保ちたいもの。近付きすぎると、攻撃される可能性もあります。



④サルを目を見ないで

サルは、目線をととも気にする動物です。サルを目をじっとみることは、喧嘩を売っているのと同じです。絶対にやめましょう。



⑤大きな声を出さず、ゆっくり動く。

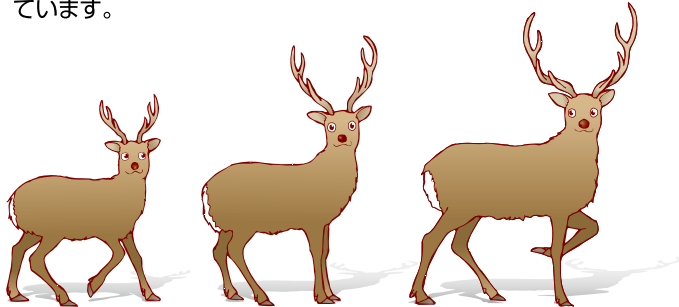
どちらもサルやシカを驚かせないためです。道ばたに転がって毛繕いをしたり、草をはんだり、リラックスしているように見えても、目の端では人間の行動を気にしています。

ルールを守れば、素敵な観察ができます。

4 ヤクシカのこと

●ニホンジカの亜種

世界には36種のシカがいますが、日本にもともと分布するのは、ニホンジカだけです。ニホンジカはさらにエゾシカ(北海道)、ホンシュウジカ(本州)、キュシュウジカ(九州)など、7つの亜種に分けられています。ヤクシカはニホンジカの中では、最も体が小さい亜種で、屋久島と隣の口永良部島にのみ生息しています。



ヤクシカ
体重:約19~37kg

ホンシュウジカ
体重:約49~80kg

エゾシカ
体重:約80~150kg

●恋と子育て

秋、発情期を迎えた雄ジカは「フィーヨー」と大きな声で鳴いて雌シカにアピールすると考えられています。西部地域の雌ジカは3~4歳で妊娠し、翌年の初夏、初めての赤ん坊を出産します。産まれた赤ん坊が雌の場合、自分が出産するまで母親と行動を共にし、出産後も育った場所に留まります。一方、雄ジカの一生はよく解っていません。

●夏と冬で模様が違う?

シカは夏毛と冬毛で色が変わります。春になると毛足の長い冬毛が抜け、鹿の子模様のある明るい体色になります。秋が深まる頃、長い毛が生えてきて暗い体色に変わります。特に、雄ジカの体色は黒っぽく目立ちます。



●角の豆知識

雄ジカにだけ生えるシカの角は毎年新しく生え変わります。春先、古い角は脱落し、ベルベット状の短毛に覆われた“袋角”が生えてきます。秋には皮が剥けて白骨のような“枯角”に変身します。

西部地域の雄ジカは満1歳でこぶのような膨らみが現われ、2~3歳になってようやく1本の角が生えてきます。枝に分かれた立派な3本枝の角になるのは5歳以上と考えられます。また、ヤクシカでは、成長しても3本枝どまりのことが多いです。



●好きな植物、嫌いな植物

シカは植食(草食)動物で基本的に柔らかいものを好み、強い毒を持っている植物以外あらゆる植物を食べ、落ち葉もよく食べています。

このため、シカの生息密度の高い西部地域の森の中では、シカの嫌いな植物が多く残されます。現在シカの分布や森に与える影響を調査しながら、対策を検討しています。



5 西部地域のかつての暮らし

西部地域には、かつて人の暮らしがありました。道路から海岸側の地域には、集落も存在していました。

●炭焼きや畑作で暮らしていた

西部地域は伝統的に永田集落の所有でした。集落内で土地を相続できない次男や三男などが耕作を始め、徐々に住み始めたと言われていきます。その時期ははっきりしていませんが、大正11年の地図に家屋の記号と地名が記載されているため、明治後半から大正初期と考えられています。

人々は、主に炭焼きや畑作で暮らし、クスノキから樟脳を作ったり、シイタケを栽培したりしていたそうです。



●林業会社で働く人も住んでいた

昭和26年から昭和40年頃には、西部地域の一部を民間会社が所有し、パルプ用の木材を伐採していました。

このため、西部地域の海岸近くの森は、人の手の加わったことのある二次林になっています。

昭和35年頃から屋久島ではプロパンガスが普及し始め、徐々に木炭を必要としなくなりました。昭和40年代以降には、西部地域で住む人はいなくなったようです。西部林道は、昭和42年に開設されました。

6 保全の取り組み

| 年 | 主な出来事 |
|---------|---|
| 1964 | 屋久島の一部地域が霧島屋久国立公園に指定。 |
| 1975 | 国設鳥獣保護区国割岳鳥獣保護区に指定。 (1984年に国から県に移管) |
| 1982 | 伐採反対運動の高まりを受け、伐採計画が一部凍結され、瀬切川右岸611haを瀬切川学術参考保護林に指定。 |
| 1983 | 瀬切川流域を霧島屋久国立公園に編入。 |
| 1993 | 西部地域を含む屋久島の一部が世界自然遺産に登録。 |
| 1997-99 | 地元住民や研究者からの反対意見等を踏まえ、「屋久島の一周道路整備検討委員会」で検討が行われ、西部林道拡幅計画が中止される。 |
| 2002 | 西部林道周辺が国立公園特別保護地区に指定。 |

●地元住民や研究者の取り組み

【調査活動】

- ・ヤクタネゴヨウの個体調査(屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊)
- ・ヤクシカの密度推移調査(屋久島生物部)
- ・研究者による様々な調査・研究

【その他】

- ・野外観察会の実施(研究者による研究成果の地域還元)
- ・屋久島オープンフィールド博物館構想
- ・西部林道清掃、海岸清掃



7 こんなときは、どうすべき？

サルに威嚇されたら？

サルがあなたを凝視し、口を半開きにしていたら、あなたは威嚇されています。ゆっくり目をそらし、背中を見せずに落ち着いて距離をとりましょう。サルは表情を読む動物なので、おびえた態度も厳禁です！

路上のサルやシカが逃げてくれない！

車を止めずに徐行で進んでください。シカは近付くと逃げることが多いですが、サルは居座ることもあります。停車すると安心してさらに動かなくなるので、そのまま徐行で進んでください。クラクションで追い払うことはしないでください。

シカが道路の傍らにいたら？

シカの位置に注意して徐行してください。逃げようとして、突然車の前方に飛び出すこともあります。夜間は、特に注意して運転してください。

サルやシカの死体をみつけたら？

病気感染のおそれがあることから絶対に素手で触らないでください。もし、死体が道路を塞いでいた場合は、鹿児島県屋久島事務所建設課(TEL:0997-46-2213)へ連絡してください。

研究者を見かけたら？

西部地域では、多くの研究者が動植物の調査をしています。なかには、朝から晩までサルやシカの行動を秒刻みで調べている場合もあり、大きな声で話しかけると、サルやシカが逃げてしまい、調査に影響することもあります。調査中の人を見かけても、声をかけないようにしましょう。

8 西部地域マップ



- 西部地域に公衆トイレはありません。最寄りの公衆トイレは永田いなか浜と大川の滝にあります。
- 西部地域では携帯電話の電波は届きません。公衆電話もありません。
- 永田集落から大川の滝まで、車で1時間程度かかります。



- シカの飛び出し注意!
逃げたと思ったら、急に方向転換することも。
- 西部林道は狭く、カーブが多い林道です!スピードを落として、
ゆっくり走りましょう。

発行／環境省九州地方環境事務所
発行日／平成31年2月
表紙デザイン・イラスト(一部)／熊澤英俊
協力／屋久島研究者有志

■問い合わせ先

屋久島自然保護官事務所

鹿児島県熊毛郡屋久島町安房前岳2739-343

TEL:0997-46-2992